

イノベーションの聖地シリコンバレーより



サンフランシスコ総領事館 領事 まつだ けいた
松田 圭太

1. シリコンバレーとは

サンフランシスコ総領事館勤務の発令を受けて、2013年6月27日にサンフランシスコに赴任しました。

よく、周り方から「シリコンバレーと言うけど一体どこなの?」と聞かれます。

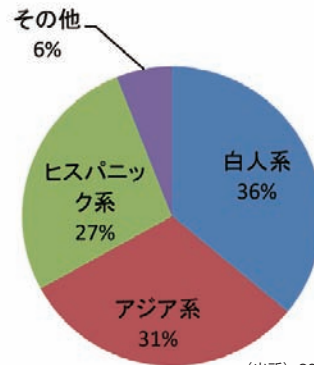
シリコンバレーという言葉自体は、1971年に雑誌Electronic Newsの中で初めて使われました。1939年にパロアルトにヒューレットパカードが設立したことに始まり、インテル（サンタクララ）やシスコ（サンノゼ）と、昔はパロアルトからサンノゼにかけてが中心でした。しかし、現在では、Facebook（メンロパーク）、Twitter、セールスフォース（共にサンフランシスコ）と徐々に北上し、現在ではサンフランシスコを含めベイエリア全体を指してシリコンバレーと言っています。

サンフランシスコ～サンノゼ間は距離にして約50マイル（約80km）であり、この間に世界的に有名なIT企業Google、Apple、Facebook、Twitter、Oracle、YAHOO!などの本社が集積しています。

2. サンフランシスコの生活状況

サンフランシスコに赴任する前に想像していたのと大きく違い、サンフランシスコ・シリコンバレーは白人が約36%（全米の平均は約65%）と世界各国から来ている移民が多く、日本人である自分が道を歩いても全く違和感がありません。全世界の50%以上が家では英語以外の言語を話していると言われていました。

また、気候もすばらしく、年間を通し300日近くが晴天



(出所) 2015 Silicon Valley Index

図2. 人種構成

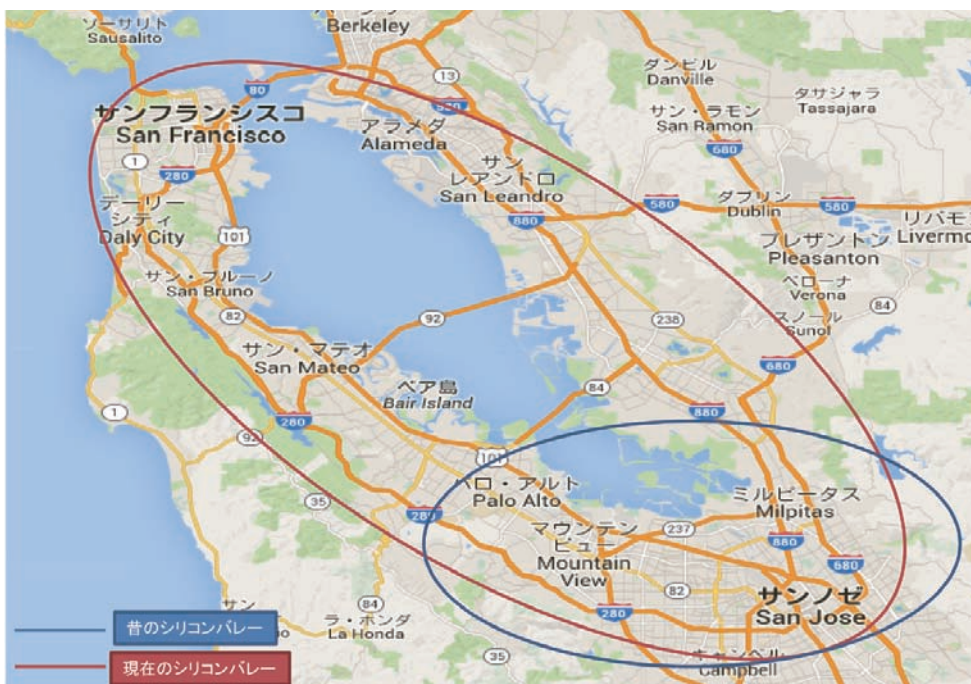


図1. 現在と昔のシリコンバレーのエリア

で雨量も少なく、夏の最高気温は約30度、冬は雪は降らず、最低気温も10度前後と、とても過ごしやすいところです。

サンフランシスコから1時間くらい北に、ナパバレーという世界的にワインで有名などころもありますし、東に3時間のところには世界遺産に指定され自然が豊かなヨセミテ国立公園がありますので、皆さん一度遊びに来てください。



写真1. グレイシャーポイントから見るハーフムーンドーム
(ヨセミテ国立公園内)

3. カリフォルニア州の経済状況と日系企業の進出状況

サンフランシスコ・シリコンバレーを含むカリフォルニア州は、アメリカ合衆国最大の経済圏です。米国商務省 (Department of Commerce) の中にある経済分析局 (Bureau of Economic Analysis) の調査によると、2013年のアメリカのGDP (国内総生産) 約16兆7,000億ドルの内、カリフォルニア州は約2兆2,000億ドルであり、全米の13%を占めています。また、このGDPは国別で見ると、カリフォルニア州は、アメリカ、中国、日本、ドイツ、イギリス、フランス、ブラジルに次ぐ世界第8位で、イタリア、インド、ロシアより上であり、カリフォルニア州だけで一国を形成できる経済規模です。

日系企業に焦点を当てると、JETRO ((独) 日本貿易振興機構) の調査では、2014年の日系企業数は1,392社 (ロサンゼルスを含む南カリフォルニアは673社、サンフランシスコを含む北カリフォルニアは719社) と過去最高になっています。日本企業にとっても、カリフォルニア州がいかに重要かが分かるかと思えます。

4. 安倍総理の訪問

そのような中、今年 (2015年) 4月30日、5月1日と安倍総理大臣がサンフランシスコ・シリコンバレーを訪問しました。日本の総理がサンフランシスコを訪問したのは海部総理以来26年ぶり、シリコンバレーを訪問したのは初め

てです。また、訪問先・目的も、26年前は日系人との会話を中心でしたが、今回の訪問の目的は、訪問先からも分かるようにイノベーションに焦点を当てています。

(総理の主な訪問先、イベント)

- ・米国経済人、テクノロジー業界関係者、ベンチャー・キャピタリスト等とのラウンドテーブル
- ・スタンフォード大学での公開シンポジウム・起業家とのラウンドテーブル
- ・テスラ社 (イーロン・マスクCEOとの会談)
- ・Facebook社 (マーク・ザッカーバーグCEOとの会談)
- ・シリコンバレーで活躍する日本人との意見交換

スタンフォードの公開シンポジウムに先立ち、総理から企業・人・機会 (チャンス) について日本とシリコンバレーをつなぐ架け橋となる「架け橋プロジェクト」を立ち上げる講演がありました。具体的には、「5年で200社選りすぐってシリコンバレーに送り込む」、「ベンチャーに挑戦する人、大企業で新事業に挑戦する人、ベンチャーへの投資に挑戦する人を毎年100人募集し、選りすぐりの30人をシリコンバレーに送り込む」など、シリコンバレーの荒波に挑んでもらうプロジェクトです。

今後当館としては、「架け橋プロジェクト」、また総理訪問が有意義であったと評価されるようにしっかりとフォローアップしていきます。

5. イノベーションが産まれる理由

「どうしてシリコンバレーからイノベーションが起こるのか。」という質問もよく周りから聞かれます。

2年間という、非常に浅いですが、シリコンバレーに通い続けた経験から「人」、「物 (場所)」、「金」と「プラスα」がイノベーションを生み出していると思います。

まず、「人」。これは言うまでも無く、世界から優秀な人材がここシリコンバレーに集まってきます。移民一世が創業したシリコンバレーの成功企業も数多くあります。

企業名	移民一世 (共同) 創業者	出身国
インテル	Andy Grove	ハンガリー
サンマイクロシステム	Andreas Bechtolsheim	ドイツ
	Vinod Khosla	インド
ヤフー	Jerry Yang	台湾
Google	Sergey Brin	ロシア
YouTube	Steve Chen	台湾
	Jawed Karim	ドイツ
テスラ	Elon Musk	南アフリカ



大学だけ見ても、当地のスタンフォード大学やUCバークレーなど、優秀な大学のほか、MIT（マサチューセッツ工科大学）、カーネギーメロン大学など、全米から優秀な学生が集まっています。昔、カーネギーメロン大学のコンピューターサイエンス（情報工学）を卒業した人に、「どうして東海岸からわざわざシリコンバレーに来たか。」と質問したことがあるのですが、「大学の先輩が皆シリコンバレーで活躍していて憧れたから。」という回答でした。優秀な先輩が後輩を魅了し、シリコンバレーに来させたり、後輩をシリコンバレーに引っ張るといった人の流れができています。

2番目の「物（場所）」はMeet Upと言われる人脈のネットワーク形成から特定の分野の勉強会まで、毎日シリコンバレーのどこかで開かれています。また、インキュベーション施設やアクセラレーターにベンチャーは、数多く集まって、お互いに世界で活躍するという同志を持ち切磋琢磨しています。例えば、インキュベーション施設の老舗であるPlug and Play TechCenter（サニーバール、<http://www.plugandplaytechcenter.com/>）では、300社以上のベンチャー企業が在席しています。また、アクセラレーターとして有名である500Startups（マウンテンビュー、<http://500.co/>）では、1期20～30社程度が少額（～5万ドル）を投資して独自のプログラムを提供し、最終日には大勢の投資家の前で「デモデー」と言われる自分たちのビジネスプランを5分程度で話すピッチイベントがあります。

日本と違う特徴は、このようなMeet Up、インキュベーション施設などで、ライバルの企業同士であっても、惜しまずに自分たちのビジネスプランや技術などを伝え合い、アドバイスをしたり受けたりします。日本では隣のライバルに決して自分たちのことを話すことはなく、オープンイノベーションの一つの形かと思っています。

3番目の「金」。イノベーションを産み出すベンチャー企業に投資している金額が、シリコンバレーは桁違いに多いです。

NVCA（National Venture Capital Association）の調べによると、2014年のベンチャー投資額は、アメリカ全体で約496億ドル、その内約半分の約246億ドルがシリコンバレーにあるベンチャー企業に投資されています。この額は、アメリカでもベンチャーが盛んな地域であるニューヨーク、ボストン、ロサンゼルスに投資額を足しても上回っています。日本と比較すると、日本でのベンチャーの投資が1年間で約2,000～3,000億円と言われているので、10倍以

上の投資がされています。桁違いの金がイノベーションの源泉になっています。

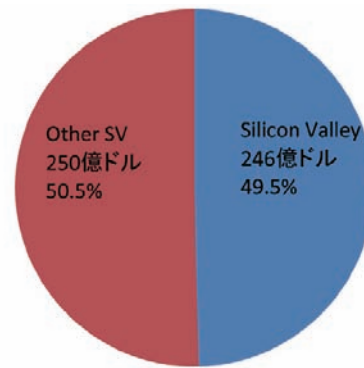


図3. ベンチャー投資額（アメリカ）2014年

そして、最後の「プラスα」。シリコンバレーにはベンチャーを支える弁護士事務所、会計事務所、コンサルタント、ヘッドハンターなどバックアップ機能が充実しています。しかし、イノベーションに寄与することとして「天気がよい」ということが意外と知られていない要素かと思っています。実際に、日本人起業家からも安倍総理へ、次のとおりの話がありました。

「失敗して落ち込んでいても、翌日空を見上げるとさんさんと輝く太陽があり、心もすっきりと晴れる。そしてもう一度、1から頑張ろうという気になる。」

ウソかと思えますけれど、実はこの天気が人の気持ちをポジティブにさせ、イノベーション創出に一役買っているかもしれません。

この、「人」、「物（場所）」、「金」、「プラスα」がシリコンバレーのイノベーションを支えているエコシステムかと思っています。

6. カリフォルニア州政府の役割や取り組み

イノベーションの定義の一つに、「新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすこと。」とあります。日本では法律で書いていることだけできるが、ここシリコンバレーでは“法律でだめだと書いていないことはやっている”という風潮があり、いろんなベンチャー企業が既存の産業に挑戦しています。カリフォルニア州政府も新しい技術、サービスには寛容で柔軟な姿勢を取っています。

例えば、シリコンバレーで注目されているベンチャー企業として、Uberという会社があります。簡単に言えば、ライドシェアリングサービス（普通の免許の人がタクシーサービスを提供すること。）をスマートフォン上で呼べる



サービスです。あと何分で自分のところに迎えにくるかがスマートフォンで一目で分かったり、事前にクレジットカード情報を登録しておくことで、下車時に料金を支払う必要がなく、とても便利で、シリコンバレーでは若者を中心に皆使っています。もちろんタクシー業界は、自分たちの収益が下がるため猛反発していますが、カリフォルニア州公益事業委員会（California Public Utilities Commission）は2013年9月にUberなどライドシェアリングサービスを提供している会社を「Transportation Network Companies」という新しい区分の事業として認めました。

サンフランシスコ市及びサンノゼ市でもAirBib（自分の家の一部屋また全部を旅行者に貸し出す仲介をしている企業。ホテル業界から猛反発が出ている。）という会社に対し、ホテルと同様のホテル税を課す法案を議会で可決し、グレーの企業から一企業として認めました。

また、サンフランシスコ市は、世界のイノベーションの中心都市となるべく、いろんな取組みを行っています。例えば、「San Francisco Mayor Ed Lee's Entrepreneur in Residence」というプログラムを2013年9月から始めました。これは、サンフランシスコ市が抱えている問題を解決すべく、ベンチャー企業とサンフランシスコ市・公的セクターが共同で進めるプログラムです。1期16週間のプログラムで、その間に企業のリーダー等からメンター（指導）を受けます。この一つの成果として、昨年（2014年）9月にはサンフランシスコ国際空港で視覚障害者用に、行きたい場所に音声案内をするスマートフォン用のアプリケーション

ンが提供されています。これはナビゲーションシステムを提供しているベンチャー企業indoorsが、サンフランシスコ国際空港と共同で16週間で作成しました。約500のBeconによる空港内の搭乗口、レストランのみならず、電源コードも含む行きたい場所を案内しています。

7. おわりに

ここサンフランシスコ・シリコンバレーは、つい昨日まで流行っていたサービス・技術が今日廃れるなど、目まぐるしく変化が早い場所で非常に刺激的です。イノベーションの聖地シリコンバレーでグローバルにダイナミックな動きを目の当たりにしながら、自分が日本に戻ったときに上手く活かせるよう仕事に取り組んで行きたいと思います。



写真2. ゴールデンゲートブリッジ